



## あなたの町の「カリタスさん」 (キャンペーン編)

2019年までの「排除ZEROキャンペーン」期間中、各地の教会の多国籍コミュニティや外国人コミュニティを紹介します。



### 札幌の「英語ミサ」コミュニティ

札幌教区カテドラルの英語ミサを支えているのは、キーボード担当のバトリックさんとギターのメルバートさんを中心とする多国籍の聖歌隊です。留学生も多く、歌の練習はミサの前後ですが、新しい顔ぶれを見つけると気軽に声をかけ、SNSを駆使して各自で練習できるようにしています。二人は音楽だけでなく、多国籍の教会の在り方についても積極的に日本人信徒と一緒に取り組み、活動しています。それは、観光客や短期滞在者など「お客さん」としてではなく、地域住民として自分が通う教会と関わって生きていきたいから。同じ世代の日本人にも、もっと教会に来てほしいと願っています。そのためには今、どのような教会の在り方が求めら

れているのだろうかと言います。心に安らぎを与える彼らの歌声が一人でも多くの人に届きますように。



イースターの準備

彼らが奏でる音楽は札幌を訪れる観光客にも好評です

### 援助実績一覧(2017年1月～4月)

援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額		
国際カリタス緊急支援要請	ハイチ	ハリケーン「マシュー」初期復興支援(EA25/16)	カリタスハイチ(Caritas Haiti)	2,306,000	
	マラウイ	食糧安全保障プログラム(EA30/16)	カリタスマラウイ(Caritas Malawi)	1,153,000	
	ナイジェリア	北東部(ボコ・ハラム被害)総合的緊急-初期復興支援(EA31/16)	カリタスナイジェリア(Caritas Nigeria)	1,219,700	
	ドミニカ共和国	洪水災害緊急-初期復興支援(EA32/16)	カリタスドミニカ(Caritas Dominica)	1,137,900	
	スーダン	ダルフール避難民支援(EA01/17)	国際カリタス・ACT(Caritas Internationalis & ACT Alliance)	2,275,800	
	セルビア	難民・移民緊急支援(EA02/17)	カリタスセルビア(Caritas Serbia)	1,212,900	
	マダガスカル	南部干ばつ後農業緊急-復興支援(EA03/17)	カリタスマダガスカル(Caritas Madagascar)	1,201,800	
	モンゴル	寒害被害被災地域における放牧民世帯救済と効果的な危機軽減支援(EA04/17)	カリタスモンゴル(Caritas Mongolia)	2,269,600	
	ブルンジ	食糧危機緊急支援(EA07/17)	カリタスブルンジ(Caritas Burundi)	1,169,400	
	コンゴ民主共和国	ブルンジ難民、南スーダン難民、帰還者緊急支援(EA08/17)	カリタスコンゴ(Caritas DR Congo)	1,109,800	
	ソマリア	干ばつ緊急支援(EA09/17)	カリタスアイルランド(Trocaire)	1,209,300	
	シリア	アレッポ復興支援(EA10/17)	カリタスシリア(Caritas Syria)	2,418,600	
	ペルー	洪水・地滑り緊急支援(EA11/17)	カリタスペルー(Caritas Peru)	1,113,400	
	南スーダン	紛争・干ばつ緊急支援(EA12/17)	カリタス南スーダン(Caritas South Sudan)	1,209,300	
	海外援助	ウガンダ	持続的農業支援3/3年目	カリタスウガンダ(Caritas Uganda)	4,739,423
		カンボジア	若者職業訓練支援3/3年目	カリタスカンボジア(Caritas Cambodia)	2,284,304
		パキスタン	平和構築のための諸宗教対話2/3年目	カリタスパキスタン(Caritas Pakistan)	3,654,900
パキスタン		コミュニティに根ざした災害リスク管理2/3年目	カリタスパキスタン(Caritas Pakistan)	2,454,752	
パレスチナ		医療支援	カリタスエルサレム(Caritas Jerusalem)	2,280,200	
バングラデシュ		少数民族教育支援1/3年目	カリタスバングラデシュ(Caritas Bangladesh)	5,629,471	
スリランカ		プランテーション地域女性地位向上支援2/3年目	キャンディ教区カリタス(SETIK)	2,276,744	
ケニア		気候変動対策プロジェクト3/3年目	カリタスケニア(Caritas Kenya)	2,170,066	
モンゴル		カリタスモンゴル組織強化支援	カリタスモンゴル(Caritas Mongolia)	3,404,400	
モンゴル		こどもセンター支援	カリタスモンゴル(Caritas Mongolia)	2,269,600	
ミャンマー		会計システム構築のための管理能力強化支援	カリタスマンマー(KMSS)	2,269,600	
ミャンマー		カリタスマンマー総会支援	カリタスマンマー(KMSS)	109,100	
国内援助		横浜教区	生活訓練事業	一般社団法人 ふれんず	3,220,000
	東日本大震災	名古屋教区	子ども支援のための施設改修事業	障がい者自立センターかまいし	3,780,000
		大阪教会管区	復興支援活動2017年度	大船渡ベース	10,906,988
		大阪教会管区	復興支援活動2017年度	米川ベース	11,098,968
		長崎教会管区	復興支援活動2017年度	大船渡ベース	18,887,279
		東京教区	福島県内外における被災避難者への支援システム構築7年次/2017年度	カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)・カリタス南相馬	36,544,306
		仙台教区	復興支援活動2017年度	NPO法人 カリタス釜石	34,319,236
		さいたま教区	福島県いわき市仮設住宅支援2017年度	いわきサポートステーション	2,943,325
		仙台教区	復興支援活動2017年度	仙台教区サポートセンター石巻ベース	25,546,681
		熊本地震	福岡教区	仮設住宅などにおける生活に必要な家電・備品配布事業2016年12月-2017年1月分	くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)
福岡教区			仮設住宅などにおける生活に必要な家電・備品配布事業2017年2月分	くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)	3,438,480
福岡教区	仮設住宅などにおける生活に必要な家電・備品配布事業2017年3月分		くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)	1,522,100	

### 編集後記



キャンペーンテキストとしても使用する、日本カトリック司教協議会が発行した「国籍を越えた神の国をめざして 改訂版」という小冊子を、改めて読み直してみた。キャンペーンを通して「この小冊子をもっと広めなさい」「ここに書かれていることを実践しなさい」と言われているように感じる。

we are **Caritas**



No.10 2017年9月号  
通算発行番号No.316

## 国際カリタス キャンペーンへの招き

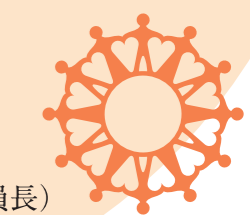


菊地司教(左)・松浦司教(右)

わたしたちの人生は、すべて旅路にあります。それは、時の流れを人生の終わりに向かって歩み続ける旅であり、また具体的に他の場所へと移動をする旅でもあります。時にその旅路は喜びや希望のうちにあり、また悲しみや不安の中で続けられる旅もあります。そのどこにあって、どのような状況でも、神の似姿である人間のいのちの尊厳は、常に守られなくてはなりません。現代社会にあっては様々な理由から、生まれ故郷を離れ、見知らぬ地へと移り住む人が少なくありません。また地域の紛争によっていのちが脅かされ、安全のために移り住むことを余儀なくされる人々も大勢おられます。神における一つの体として生きるわたしたちは、困難に直面する兄弟姉妹を見捨てることはできません。その一方で、異なるものを排除することで安心を得ようとする社会の傾向は強まっており、

人間のいのちの尊厳が危機にさらされる事態も相次いでいます。「誰一人として排除されたり、存在を無視されたりしてもよい人はいない」と強調する教皇フランシスコの呼びかけに応え、カリタスジャパンと日本カトリック難民移住移動者委員会は手を携え、国際カリタスに協力しながら、国内において「排除ZEROキャンペーン〜国籍をこえて人びとが出会うために〜」を始めます。同じ旅するものとして、困難に直面する兄弟姉妹と出会い、学び、行動することができますように、多くの方の参加を期待します。

菊地 司教  
(カリタスジャパン責任司教)  
松浦 悟郎司教  
(日本カトリック難民移住移動者委員会委員長)



カリタスジャパンの活動へのご支援を今後ともよろしく願いいたします  
カリタスジャパンの活動は皆様の目ごころの基金と「四旬節堂の献金」によって支えられています。基金専用のゆうちょ銀行払込票をご用意しておりますので事務局までご請求ください。  
匿名をご希望の方は、払込票の通信欄に明記いただくか、所定の欄にレ印を付けてください。基金のご意向を通信欄に明記(または所定欄にレ印)くださるようお願いいたします。ご記入がない場合は、最優先の援助先とさせていただきます。呼びかけ中、受付中の基金は、カリタスジャパンのホームページにてご案内しております。

【2017年1月1日～4月30日の献金額】  
(単位:円)  
四旬節献金 12,931,125  
国内援助 2,895,872  
海外援助 16,602,681  
スーダン支援 1,288,150  
東日本大震災 7,752,144  
ネパール地震 156,902  
ヨーロッパ難民 3,054,528  
熊本地震 4,348,274  
クリスマス基金 4,292,178  
マンソリーサポーター 2,190,500  
運営寄付 520,033  
合計 56,032,387  
※ネパール地震への募金受付は終了しました。たくさんのご協力ありがとうございました。

We are Caritas No.10(2017年9月号)

郵便振替番号 00170-5-95979

宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン  
発行人 菊地 功  
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館  
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464  
Email:info@caritas.jp ホームページ <http://www.caritas.jp>

<https://www.facebook.com/caritasjapan>

9月27日  
カリタスジャパンのウェブサイト  
リニューアル!!  
<https://www.caritas.jp/>  
You can read the text of this newsletter with Google Translation!  
排除のない多様性社会をめざして  
カリタスジャパン  
Choose your language

キャンペーン開始にあわせて、カリタスジャパンのウェブサイトがリニューアルします。ティールグリーンを基調としたデザインで、スマートフォンやタブレットでも簡単に閲覧できるようになっています。

開催地	開催日(土)	時間	会場
大阪	9月16日(土)	10:00～15:30	会場:サクラファミリア(梅田)
札幌	10月21日(土)	10:00～15:30	会場:藤女子大学(北16条)
東京	11月11日(土)	14:00～18:30	会場:YMCA青少年センター(水道橋)

日本カトリック難民移住移動者委員会 2017年度全国研修会  
難民・移住者・移動者に関わっている方、または関心をお持ちの方を対象とした研修会  
●要申込み 要項および申込書は <http://www.jcarm.com>からダウンロード可(10月以降)  
11月23日(祝・木)13:00～25日(土)12:00  
会場:サクラファミリア・大阪梅田教会および視察先(コリアタウン、神戸港ほか)  
申込み・詳細:日本カトリック難民移住移動者委員会(☎03-5632-4441)

今年度は、キャンペーンと  
同様のテーマで開催されます!



# 国際カリタスは、「移住者・難民」をテーマとするキャンペーンを立ち上げました。

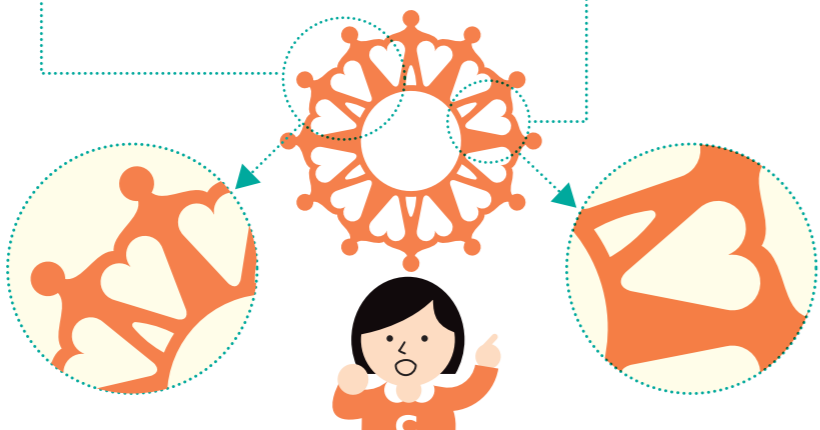
現代の世界において、「移住者・難民」に影響を受けていない国は皆無と言っても過言ではなく、「移住者・難民」は世界的な議論の中心となっています。そのような中、社会はより閉鎖的になり、不寛容や嫌がらせが横行しています。しかしながら、この問題の根源である「深刻な人権侵害」については、ほとんど言及されることがありません。

## 「出会いの文化」を开花させよう

国際カリタスはこのキャンペーンで、移住者・難民に関わる全てのコミュニティ(彼らの出身国、通過国、受け入れ国)において、「出会いの文化」を育むことを目指します。



手をつなぐ男女は、信頼と支え合いを、手をつなぐことでできたハートの形は、絶対的な人間愛を表しています。



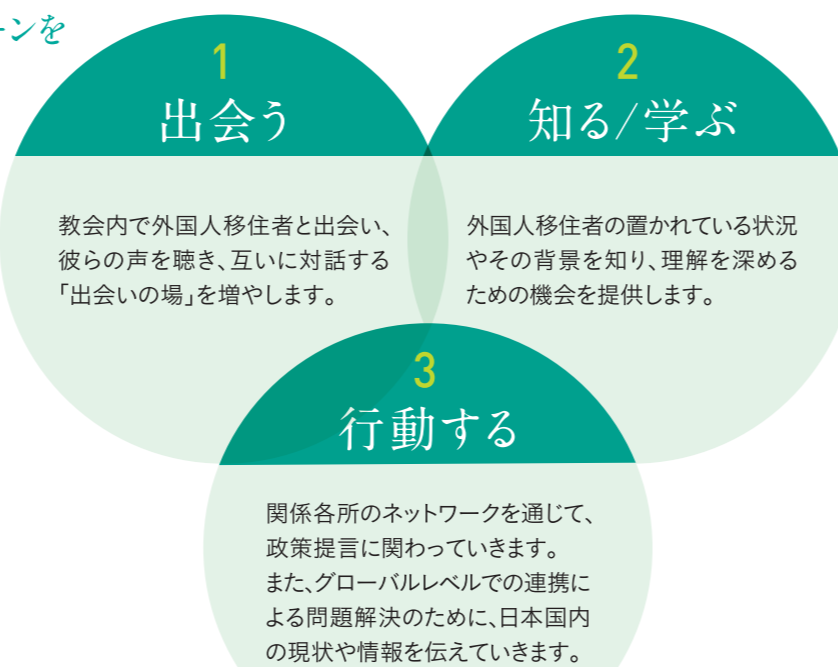
キャンペーンロゴはこれだ!



～国籍をこえて人びとが会うために～  
カリタスジャパンは、国際カリタスからの呼びかけに応え、国内において、日本カトリック難民移住移動者委員会と共同でキャンペーンを実施します。



キャンペーンを通じて…



1 出会う  
教会内で外国人移住者と出会い、彼らの声を聴き、互いに対話する「出会いの場」を増やします。

2 知る/学ぶ  
外国人移住者の置かれている状況やその背景を知り、理解を深めるための機会を提供します。

3 行動する  
関係各所のネットワークを通じて、政策提言に関わっていきます。また、グローバルレベルでの連携による問題解決のために、日本国内の現状や情報を伝えていきます。

## 私たちはみな寄留者である

私たちは国籍を越えて人々がともに生きる社会を実現するため、社会に広く働きかけ、教会が、外国人移住者の置かれている現状を知り、理解し、具体的な行動を起こしていくように促します。

寄留者とは  
キリスト者にとっては、天国が本籍地です。私たちは、父なる神の懐に帰ることを希望しながら、寄留者、すなわち一時滞在の外国人のように、この世で暮らしているのです。



日本国内キャンペーンテキスト『国籍を越えた神の国をめざして 改訂版』

## 2018年6月～ アクションウィーク

### 「日本カトリック難民移住移動者委員会」(J-CaRM ジェイ・カーム)とは?

カリタスジャパンと同じく、日本カトリック司教協議会の社会司教委員会を構成する一委員会です。福音に基づき、多民族・多国籍・多文化共生社会をめざし、すべての人が神の子として、平等で基本的人権が尊重され、相互の文化・民族性を尊敬し、ともに兄弟・姉妹として生きることができる社会の実現のために働いています。  
世界難民移住移動者の日(9月第4主日)や船員の日(7月第2主日)に祈りと支援を全国の教会に呼びかけるほか、年間を通じて、外国籍の人々の人権と尊厳を守るための啓発活動、日本の移住者・難民政策に対する提言活動、教区や小教区の支援者および関心を持つ人々を対象にした研修会開催、言語別司牧者支援、各地の港での船員司牧・訪船活動支援などを行っています。

### 募金受付

キャンペーン期間中、カリタスジャパンでは、「移住者・難民のため」の募金を受け付けます。いただいた募金は、海外のカリタスおよび国内の諸団体が実施する、移住者・難民のための支援活動、啓発活動に使わせていただきます。

- 郵便振替番号:00170-5-95979
- 加入者名:宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン

※通信欄に「キャンペーン募金」とお書きください

これにともない、「ヨーロッパ難民・移民受入支援」のための募金は、2017年9月末日をもって終了させていただきます。皆様のご協力ありがとうございました。

2017年9月27日

## キャンペーン開始

キャンペーンを通して国際カリタスは、**今なぜこのように多くの人々が故郷を離れなければならないのか**を理解し、難民や移住者との結びつきを深めていくよう皆さんに働きかけたいと思っています。  
そもそも教会は、移住者や難民に対する神のもてなしを実践するよう招かれています。私たちが難民や移住者に心を開く時、それはキリストを歓迎しているのだということを思い出しましょう。

ルイス・アントニオ・タグレ枢機卿(国際カリタス総裁)



## 日本の移住者・難民の状況

日本では、戦争前後の時代から日本に在住する在日コリアンの人々を中心に、1980年代はじめには80万人の外国籍者が暮らしていました。1980年代後半からは、アジアや中南米諸国などから日本に働きにくる労働者や、国際結婚のために定住する人々が増加しました。  
2017年現在の統計では、日本の在留外国人数は230万人を超え、外国人労働者数も100万人を超えています。また国際結婚などで生まれる子どもたちの数も増え、現在では、日本で生まれる30人に一人が外国にルーツをもつ子どもたちになっています。このように、日本社会はすでに多民族多文化の社会になっているのです。  
しかし一方で、日本に移住し定住する外国人は、長い間日本人と同等の権利を保障されず、社会の中でも差別や人権侵害にさらされてきました。使い捨て労働力として雇用の調整弁にされる移住労働者、地域や家庭の中で孤立し、差別やドメスティックバイオレンス(DV)などの被害に苦しむ移住女性、収容され退去強制の恐怖におびえる非正規滞在の外国人、学校や社会から疎外されいじめに

苦しむ外国にルーツをもつ子どもたちなど、様々な問題がおきています。また、日本に庇護を求める人の数も、2010年代に入り急増しています。2010年をはじめは年間およそ1,000人だった難民申請者の数は、昨年2016年には10,000人を超えました。一方で難民認定された人の数は、28人(2016年度)にすぎません。日本政府が難民受け入れに消極的な中、多くの庇護希望者がこの日本で、いまま不安といのちの危険にさらされているのです。

山岸 素子

(日本カトリック難民移住移動者委員会委員)



松浦司教と横浜教区のフィリピンコミュニティのメンバーと(右下段が山岸さん)

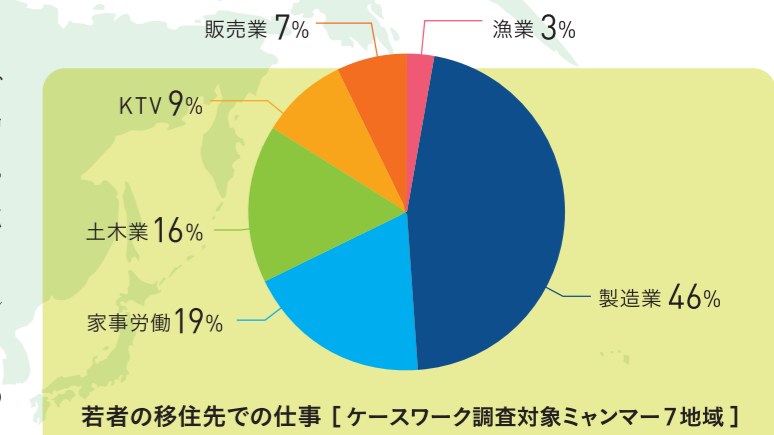
2019年

## 世界の現状

国境を越えた移住者数は、過去15年間に約41%増加し、世界で2億4400万人<sup>※1</sup>以上といわれています。「雇用不足による経済的困窮」「他国への憧れ」「紛争や政治的圧力」など移住にいたる理由は様々ですが、これらの移住者<sup>※2</sup>が直面している課題は深刻化しています。

例えば、カリタスマyanmarによる2016年の調査データによると、myanmarからの移住者の多くは仕事を求めて他国へ渡る若年層であり、カリタスマyanmarがパートナー事業として関わっている7地域内の移住労働者のうち46%は移住先での工場勤務、19%が家政婦、そして9%の若者がKTV<sup>※3</sup>と呼ばれる接客業に従事し、それらの多くが人身売買に巻き込まれるリスクの高い環境下で働いています。また、同国全体の統計では、人身売買に巻き込まれたケースのうち71%が「地元で先の希望が見いだせず、リスクの高い移住労働に追い込まれた」ことが立証されています。  
特にアジア諸国においては、移住者の権利を守るための体制が極端に弱いため、「送り出し国と受け入れ国が連携したネットワークによる対策」への取り組みが不可欠です。

※1 IOM2015調査データ ※2 庇護を求める難民含む ※3 カラオケボックスの略で、カラオケバーでの接待業



リスクの高い移住労働による移住先で麻薬密売業に巻き込まれる直前で助けられた少年。「他国への憧れで移住願望が高まり、親の反対を押し切って移住した」と話す。



もう一つの動向としては、気候変動の影響で移住せざるを得ない人々(自然災害被災者など)が増加している点も近年の特徴です。